



神奈川県東ロータリークラブ

KANAGAWA EAST ROTARY CLUB

DISTRICT 2590/CHARTERED MAY 29-1976/WEEKLY BULLETIN

2012-2013年度 R I 会長 田中 作次

●クラブテーマ「調和・Balance」●



第2590地区 ガバナー
露木 雄二

- 会長 飯田 泰之
- 会長エレクト 伊東 英紀
- 副会長 山田 正憲
- 副会長 吉田 隆男
- 幹事 西山 潔
- 副幹事 山本 芳弘
- 会計 朝日 達夫
- 副会計 金森 欣一
- S A A 横溝 亘
- 副 S A A 矢野 修二
- 副 S A A 河野 明光
- クラブ会報 森 永 健



写真提供 小池将夫会員

「我が家の隣の公園で咲きはじめました」

事務局 ホテルキャメロットジャパン内 〒220-0004 横浜市西区北幸 1-11-3
TEL: 045-314-3900 FAX: 045-314-3555

例会日 毎週金曜日 0:30 ~ 1:30 PM (第5金曜日 6:00 PM)

例会場 ホテルキャメロットジャパン **創立記念日** 昭和51年5月29日

URL <http://www.kanagawahigashi.com/>

E-mail kerc@beach.ocn.ne.jp

2012-2013年度 **第33週報 No. 1780** 2013年(平成25年) 3月15日 第1780回例会記録 3月22日発行

司会 山本 芳弘 副幹事

特別行事 米山奨学金贈呈 李 徳雨 様

点鐘 飯田 泰之 会長

斉唱 「それでこそロータリー」

四つのテスト 長井 章 職業奉仕委員長
(第1例会のみ)

ゲスト紹介 中畑 孝雄 様 (ゲストスピーカー)
李 徳雨 様 (米山奨学生)

ビジター紹介 神奈川県 R.C 金野 克佐 様
神奈川県 R.C 樋口 明 様



皆さん、こんにちは！

先月はブラジルのサンパウロに、サンパウロ大学の派遣研究員として行って参りました。
《次頁へ続く》

本日〈3月22日〉のプログラム

夜間例会、及びマレーシア ルーヤン R.C 来日歓迎会

そして、いい機会がありまして、リベルダージロータリー・クラブを訪問しました。やはり世界どこに行ってもロータリーアンの方は優しくて親切でした。そういう点を見るにつけ、私も米山奨学生としてもっと頑張りたいと思って、日本に帰りました。

誕生日祝

横溝 亘 会員 (3月10日)
田中龍太郎 会員 (3月18日)



結婚記念日祝

金森 欣一 会員 (3月20日)
白井 康夫 会員 (3月23日)
渡邊 淳 会員 (3月25日)



会長報告

飯田 泰之 会長

・3月度定例理事会の報告

幹事報告

西山 潔 幹事

・次週3月22日は、夜間例会、及びマレーシアルーヤンR. C来日歓迎会となります。また29日が通常例会となります。お間違えないようにお願い致します。

委員会報告

国際奉仕委員会 委員長 白鳥 厚夫

- ①コタキナバルのストリート・チルドレンに衣食住教育を与えているCFFMの安部夫婦に金5万円拠出する件。
- ②会員名簿をルーヤンR. Cに渡す。
- ③次週22日の夜間例会は是非夫婦同伴でご出席を！ルーヤンR. Cからは13組のご夫婦が出席予定。
- ④本日例会後、ルーヤンR. C歓迎の準備会議を会長、幹事、親睦、国際、SAA、吉田PP、加藤PPで行いますので、関係者の方は出席をお願い致します。

スマイルボックス

河野 明光 副SAA

神奈川R. C 金野克佐様 お世話になります。
神奈川R. C 樋口 明様 本日はお世話になります。よろしくお願い致します。

横溝 亘君 誕生日祝い、ありがとうございます。2月26日より3月8日まで、仕入れの為シアトルを中心にワシントン州を約3000km走って来ました。さすがに疲れしました。

田中龍太郎君 誕生日祝い、ありがとうございます。一昨日、朝日さんのコンペで当日賞を頂きました。おめでたいことは何度あっても良いですね。楽しい一年にしたいです。

渡邊 淳君 今年も結婚記念日祝いを祝って頂き、ありがとうございます。新しい建物が竣工し、ホッと一息です。“シルク ガーデニア”ホームページでご覧下さい。これからもどうぞよろしくお願い致します。

金森欣一君 本日は、結婚記念日のお祝いをありがとうございます。早いもので、もう20年が経ちました。これからも仲良く暮らしていきたいと思っています。

飯田泰之君 ①本日のゲストスピーカー中畑孝雄様、卓話、よろしくお願いします。②米山奨学生の李徳雨さん、ようこそいらっしゃいました。

山本 登君 本日(も)、所用にて早退致します。ご容赦下さい。

西山 潔君 中畑様、本日の卓話、よろしくお願い致します。楽しみにしております。

山田正憲君 中畑様、本日の卓話、よろしくお願い致します。

友添辰哉君 佐藤さん、お世話になりました。

小山市康君 中畑孝雄様、ようこそいらっしゃいました。本日の卓話、よろしくお願い致します。

矢野修二君 中畑孝雄様、ご無沙汰致しております。本日の卓話、よろしくお願い致します。ドク君、お帰り。ブラジルどうでした？

河野明光君 一昨日の強風吹き荒れた日、朝日さんの会社が主催するゴルフコンペに参加して参りました。30名の参加者で、一人も100を切れる方がいないという壮絶なコンディションのコンペでした。その中に、引き千切られたボロ雑巾の様に打ちひしがれた田中龍太郎さんの姿を見た時、「何とも、お気の毒だな〜。」と思ってしまうました。

3月15日	14件	43,500円
本年度累計		1,564,500円

出席報告

竹山 洋 出席委員長

会員総数	54名	(37+17)名	
出席会員数	43名	(29+14)名	
出席率	84.31%		
ゲスト	2名	ビジター	2名
前回補正後	81.63%	前々回補正後	90.00%

卓 話

「ヒットを生む会社の宝物 ～奇跡の玉子、幸せの玉子～」

日本経済新聞社 横浜支局 支局長 中畑 孝雄 様
(紹介者 矢野 修二 会員)



東日本大震災から2年が経ちました。今日は「かもめの玉子」を人気の土産菓子に育て上げたさいとう製菓(岩手県大船渡市)社長のこれまでのご苦労と、津波被害を乗り越え、パッケージを一新した復活劇の裏に横浜のアーキテクチャ・グラスアーティスト、野口真里さんとの海を越えた出会いがあったというお話をさせていただきます。

齊藤俊明社長がかもめの玉子を作るようになったきっかけも実は津波でした。昭和35年5月24日、チリ地震津波が三陸・大船渡を襲いました。盛岡の警察学校に入ったばかりで、その日朝、宿直当番から「壊滅だ」と聞かされ、バスで向かうと細々と菓子を作って売っていた家は全壊でした。

中学3年生の時に父親が病に倒れ、早起きして大福を作ってから高校に通った。簡単に作れるお菓子を自転車で売り歩いて家族を支えていたので、「なんと不幸な星の下に生まれたことか。絶対、お菓子屋はやらない」と思っていたそうです。

しかし、被災後、父親は行政連絡員の世話役で手いっぱい。学校に戻れば家族が路頭に迷うのが目に見えていた。結局、家を手伝い8月に再開させます。叔父さんから、かもめの玉子の復活を助言され、弟さんと秋から作り始めたのでした。

最初の発売はその8年前。店の特徴を出さなくては老舗にかなわない。そこで、観光みやげにと父親が発案しましたが、病弱だったため、店がじり貧になり製造をやめていました。より卵に近い形に出来ないかと作り始めたものの、菓子作りの基本が分かっていない。3倍苦労したといいます。

本当にお客さんが相手にしてくれるのか。素人のハンディを感じながら10年間、ただお金を返すためぼろぼろになるまで無給で働いた。ところが、借金がなくなると、だんだん惨めな気持ちになってきて商売に罪悪感を抱き、苦しんだそうです。

救ってくれたのは松下幸之助の本でした。電気製品を潤沢に提供することで社会が豊かになり企業も成長するという水道哲学。金もうけが商売だという考えが根本的に間違っていたと気づき、すごく楽になったといいます。その時29歳でした。お客に喜んでもらいたいから、おいしく作ろう。だから安い原料ではなくいい原料を使うと心に決めた。それが、かもめの玉子のおいしさの原点です。

今回の震災直後、被災を免れた工場に役員が集まり、在庫の25万個を避難所に支給しました。生産もいち早く再開。齊藤が立ち上がったぞ、と地元を鼓舞しようと7億円以上かけ後工程も改良。包装も大海原をしなやかに飛ぶかもめに変えようと考えました。思い描いていたのは本店のガラス装飾のデザインでした。しかし、店は津波にのみこまれ作者が分からない。すると励ましの便りが届いたのです。差出人は野口真里さんでした。「貴本店のリニューアルの際、正面の壁面のグラスアートを手がけさせて頂いたものです。皆様が無事かどうかとても心配しておりました」。作者が野口さんと分かり、新包装が実現しました。横浜駅にガラスモニュメントを制作することになった野口さんは、かもめの玉子の復活を応援しようと、羽ばたくたくさんのカモメを描いたといいます。

感謝の気持ちを忘れず幸せを願う奉仕の精神。大ヒットを生んださいとう製菓の宝物です。

ロータリーニュース

持続可能なプロジェクトを行う2つのクラブ

二人のロータリアン、ウォルト・シャーファーさん(米国、チコ・ロータリー・クラブ)とサディキエル・キマロさん(タンザニア、モシ・ロータリー・クラブ)は、5年間に及ぶプロジェクトでの協力を通じて、持続可能性の大切さを学びました。

「協力相手と連絡を取ることが重要」と話すシャーファーさんは、プロジェクト実施地の住民であるキマロさんと、Eメールや電話で頻りに連絡を取り合ってきました。

二人が所属するクラブは、2008年以来、植樹、学校への給水システムの提供、虫下しの配布、経済発展プロジェクトなど、多くのプロジェクトを協力して実施し、その影響は、キマロさんの地元だけでなく、周辺の農村にも及んでいます。

今回、両クラブは、ビデオ、「10 Key Points for a Successful International Rotary Project」(国際的なロータリー・プロジェクトを成功させる10のポイント)を作成しました。

ビデオでは、クラブ会員からの幅広い参加、クラブ間の強力なパートナーシップ、地域住民の参加、地域リソースの活用など、10のヒントが紹介されています。

クラブ間の協力は、チョコクラブがアフリカで安全な水を提供することを目標にし、シャーファーさんが非営利組織のAfricareに連絡したことがきっかけとなりました。キリマンジャロ地域の人々がきれいな水を必要としていることを知ったシャーファーさんは、地元の本シ・クラブで当時のクラブ会長だったキマロさんに電話をし、プロジェクトのアイデアを伝えました。その後、両クラブの賛成を得て、協力関係が成立しました。

両クラブの協力による活動は、水と衛生に的を絞った活動から始まり、その後、同様のプロジェクトを周辺地域でも実施しながら、プロジェクトの裾野を広げていきました。

ロータリーの6つの重点分野にも注目し、真に重要なニーズを把握するために、地域住民との話し合いも行いました。

「何が必要とされるか住民に尋ね、優先すべき事柄から離れないように気をつけた」とシャーファーさん。

結果的に、5つの重点分野に関連する活動を実施しました。

「それぞれ独立したプロジェクトに聞こえるかもしれませんが、いずれも同じ地域で、同じクラブが実施したものです」

プロジェクト資金は、財団のマッチング・グラントとクラブの資金によって賄われました。また、その後、両クラブが所属する地区が、ロータリー財団の未来の夢計画（新しい補助金モデル）の試験地区となったため、グローバル補助金も利用しました（新しい補助金モデルは、2013年7月より全地区に導入されます）。

両クラブは、グローバル補助金のためのオンライン申請プロセスを、いち早く使用しました。当初は複雑だった申請手続きも、現在はオンラインで簡単に申請出来るようになったとシャーファーさんは話します。

また、グローバル補助金では、より多くのクラブや地区が協力するようになるため、それだけ利用出来るリソースが増え、ニーズのある地域社会で大きな影響を与える持続可能なプロジェクトが実施できると、キマロさんは付け加えます。

両クラブは現在、新たなプロジェクトを実施するため、3回目となるグローバル補助金の申請を行っています。これが承認された場合、これまでにタンザニア北部で実施されたすべてのプロジェクトを含め、活動資金の総額は529,000米ドルとなります。今回のグローバル補助金では、地域全体の水システムの改善、医療クリニックの開設、図書館への太陽光システムの設置、コンピューター室の設置のほか、農家を対象に効率的な販売方法の研修を行うことが目標です。

「大きな影響を生むことが出来るから、何年間もこの活動を続けてきた」とシャーファーさん。

「多くのプロジェクトが実施され、さまざまな団体が活動するのを見てきましたが、いつも活動後のフォローアップが不十分でした。私たちは持続可能性を重視し、模範的なプロジェクトを示すために、この活動を続けてきたんです」

ロータリー・ニュース

2012-13 年度R 青少年交換学生 マンスリーレポート

Monthly Report / February 2013

Lisa OBATA/USA

2月も終わり、留学生活もあと4ヶ月程だと思うと、”あと少し頑張れ”と叱咤する自分と”今帰るのは惜しい、少しでも長くいたいな”と思う自分がいることに気づかされます。残された時間を有意義に、また楽しんで過ごせるよう出来ることには率先して臨んでいきたいです。

2月、といえばバレンタインが行事として有名ですが、アメリカのバレンタインは愛する人と(プロポーズのパフォーマンスを除き)慎ましくお祝いするというのが通例のようです(女の子は親しい友達に渡したりすることも無くはないのだとか)。

日本のように大きな紙袋を抱えた女の子、または男の子を見ることはまずありません。日本のようにチョコが主流でもありません。主にレターとブーケです。私も一応日本のバレンタインはこんな感じ、と言ってブラウニーやらマフィンを作って持って行ったのですが日本のバレンタインとのテンションの差に、あれ今日何の日だったっけ？と忘れそうになることが多々ありました。

家族には二人それぞれにチョコレートボックスとお母さんに薔薇の花束を贈りました。家族や友達にお菓子やレターを貰えたのが嬉しかったです。

3月1日が翠嵐高校の卒業式ということで、参加出来ないながらもサプライズビデオを作って3年生を送る会で上映してもらいました。撮影に協力してくれたのは日本語のクラスの皆で、これもまた良い思い出になったと思います。

自分が卒業したという実感はまだ学校に通っている身なのでなかなか湧きませんが、あの制服をもう着ることがないのだと思うと少し寂しいです。

日本ではもう冬が明け、薔の臺が顔を出し始めている頃でしょうか。季節の変わり目は調子を崩しやすいと聞きます。くれぐれも体調には気をつけてお過ごし下さい。

次回《3月29日》の卓話予定

イニシエーションスピーチ

中野 真理 会員